

写真

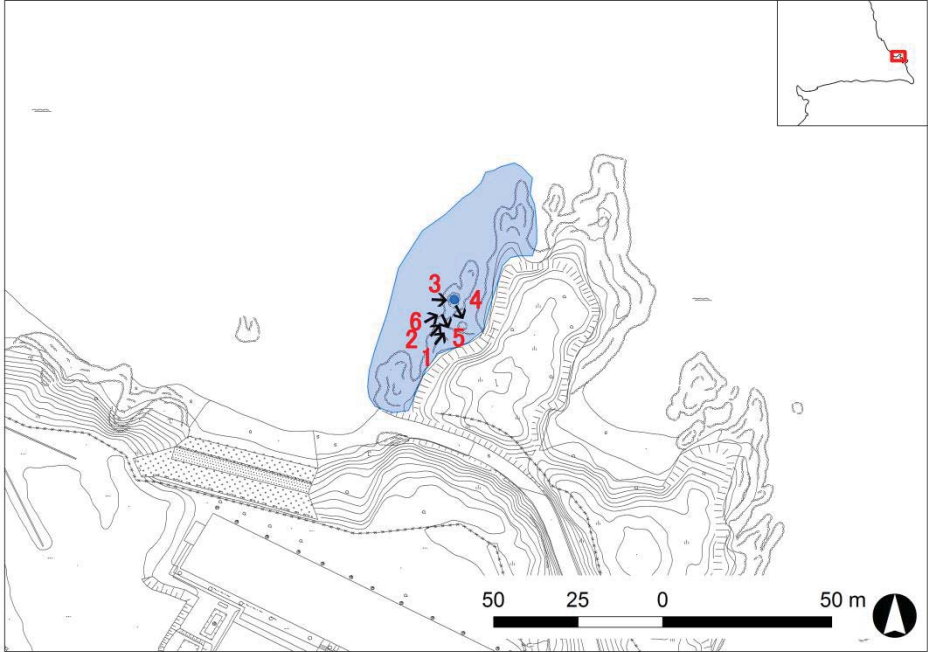


写真 (No.109⑦)
ポットホールの背後の露頭では、暗色味のある嘉陽層を不整合で覆う赤黄褐色を呈する洪積世堆積物が観察できる。ポットホールの底に溜まった土砂も黄褐色を呈している。



写真 (No.109⑧)
ポットホールが形成されている波蝕棚は周辺よりも2~3m程度高い場所に位置している。

付表- 4.2.2.20(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 110)

No.	110
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 620m に位置する岬の東向き海蝕崖の裾にみられる波蝕棚である。海蝕崖に沿って連続し、沖に向かっての広がり是比较的狭い。</p> <p>背後の海蝕崖に海蝕洞が形成されている。</p>
位置	 <div data-bbox="406 1265 842 1438" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【No.110 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 32.0474" ・経度:128° 03' 00.8240" ・標高(EL):0.643m ・標高(DL):1.806m </div>
形状・構造	<p>海蝕崖の手前に海岸幅 70~80m、沖合に向かって 10~20m の波蝕棚が発達する。</p> <p>背後の海蝕崖に、幅約 4m、高さ 1~1.5m、奥行き 5~6m の海蝕洞が形成されている。海蝕洞の手前は砂、内部は砂礫が堆積している。</p>
規模	<p>波蝕棚の規模は幅 70~80m、沖合に向かって 10~20m 程度と比較的狭く、周辺の砂浜からの高さは 1~2m 程度とやや高い。</p>
その他 (保存状態)	<p>波蝕棚の背後の海蝕崖に形成された海蝕洞には砂や礫が堆積しつつある。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.110 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 32.0474"
- ・経度:128° 03' 00.8240"
- ・標高(EL):0.643m
- ・標高(DL):1.806m



調査地点:No.110(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.30 14:05



位置情報:緯度 26° 31' 31.94"
経度 128° 03' 00.60"
撮影方向:北北東



位置情報:緯度 26° 31' 32.05"
経度 128° 03' 00.48"
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 32.38"
経度 128° 03' 00.77"
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 31.85"
経度 128° 03' 00.87"
撮影方向:北

写真



写真 (No.110①)
波蝕棚。
高さは砂の堆積面よりも1~2m程度高い。



写真 (No.110②)
同上。



写真 (No.110③)
同上。
嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層。

写真



写真(No.110④)
背後の海蝕崖に形成された海蝕洞。
海蝕洞の大きさは幅約4m、高さ1～1.5m、奥行きは5～6mである。

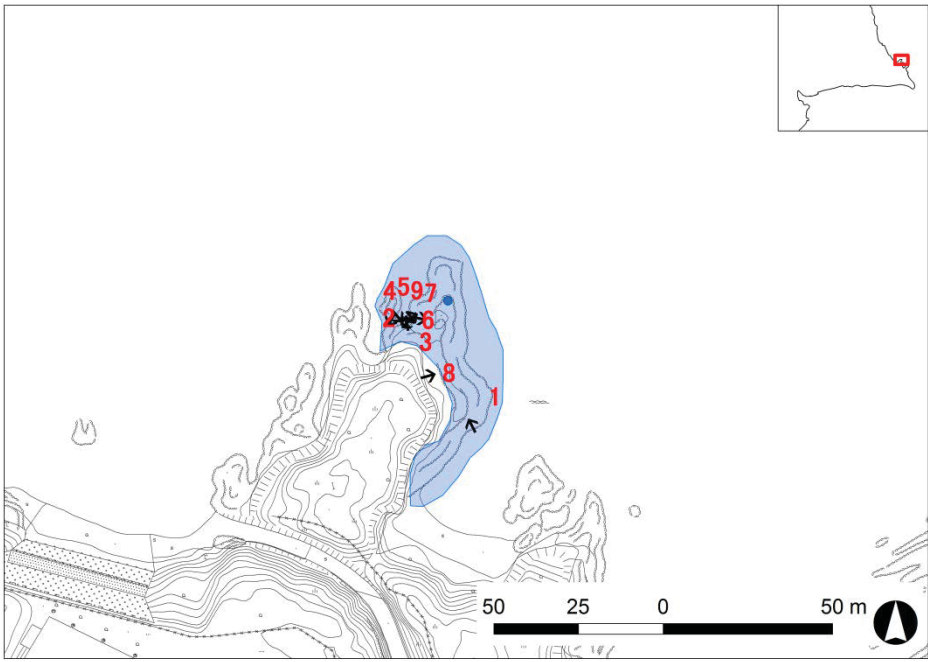


写真(No.110⑤)
同上。
海蝕洞の洞内は5～20cm程度の円摩度の比較的大きい礫や砂が堆積している。



写真(No.110⑥)
海蝕崖の一部では、嘉陽層の上に黄赤褐色を呈する洪積世の堆積物が不整合に覆っている露頭が観察できる。

付表- 4.2.2.21(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.111)

No.	111
種類	波蝕棚
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日
概要	辺野古崎の北西約 590m に位置する辺野古崎北方海岸の岬の北西向きの海蝕崖の裾にみられる波蝕棚であり、No.110 に続く波蝕棚である。地質は嘉陽層の互層で、海蝕洞もみられる。
位置	 <div data-bbox="414 1209 853 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.111 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 33.0190" ・経度:128° 03' 02.3251" ・標高(EL):1.410m ・標高(DL):2.573m </div>
形状・構造	<p>岬の先端部を中心に海岸線の幅約 80m、沖合に向かって約 40m の波蝕台が形成されている。</p> <p>海蝕崖の一部には、幅約 5m、高さ約 4m、奥行き 7~8m 前後の海蝕洞がみられ、海蝕洞の手前から内部に砂礫が堆積している。</p>
規模	<p>波蝕棚の大きさは海岸線幅約 80m、沖合に向かって約 40m。</p> <p>海蝕洞の大きさは、幅約 5m、高さ約 4m、奥行き 7~8m 前後。</p>
その他 (保存状態)	海蝕洞は砂礫で埋まりつつある。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.111 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 33.0190"
- ・経度:128° 03' 02.3251"
- ・標高(EL):1.410m
- ・標高(DL):2.573m



調査地点:No.111(波蝕棚)

撮影日時:2014.6.30 14:16



位置情報:緯度 26° 31' 33.47"
経度 128° 03' 02.15"
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 33.20"
経度 128° 03' 01.81"
撮影方向:東北東



位置情報:緯度 26° 31' 32.84"
経度 128° 03' 01.90"
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 32.75"
経度 128° 03' 02.20"
撮影方向:北

写真



写真 (No.111①)
No.110 の波蝕棚に連続する、岬の北東から東側の裾に形成されている波蝕棚。



写真 (No.111②)
同上。
地質は嘉陽層の砂岩・泥岩が卓越する互層で、走向・傾斜は、N10W、29(W)で、西向きに傾いている。



写真 (No.111③)
同上。

写真



写真 (No.111④)
海蝕洞。
大きさは、幅約 5m、
高さ約 4m、奥行きは
7~8m で洞内の底
は砂礫で埋まっている。



写真 (No.111⑤)
波蝕棚。
嘉陽層の互層で、地
層は西向きに傾いて
いる。



写真 (No.111⑥)
同上。

写真



写真 (No.111⑦)
地質は嘉陽層の互層で、西向きに傾いている。

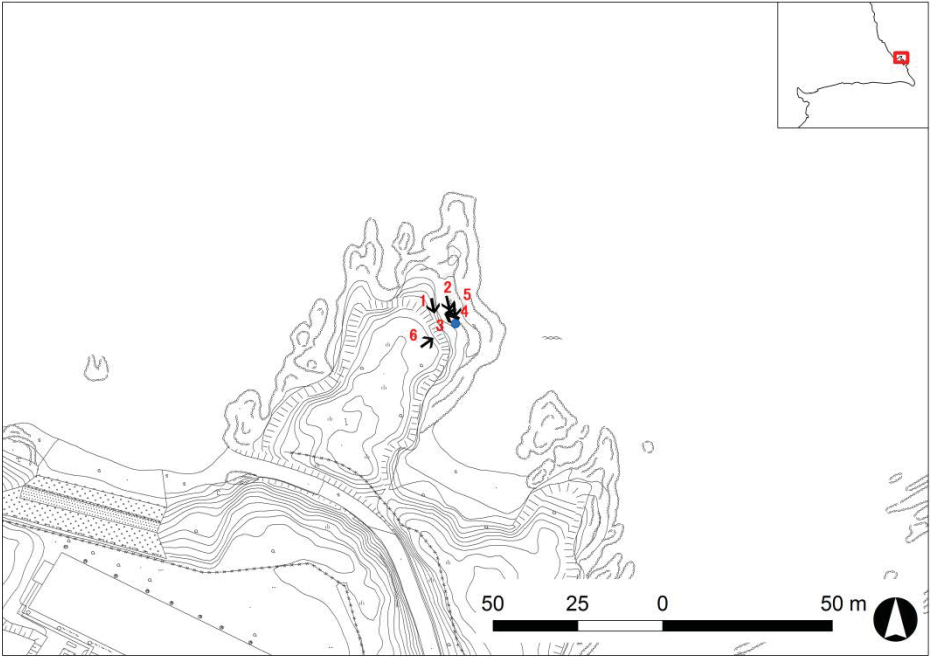


写真 (No.111⑧)
波蝕棚の表面。
岩の表面に蜂巢状の穴が形成されている。これらの穴は、おそらく風による営力で浸食されて形成された風漣痕と思われる。これらは「蜂巢風化」などと呼ばれ、岩石表面に蜂巢状の穴が空けられる一種の「風化作用」で、細粒砂岩に多い。



写真 (No.111⑨)
同上。
ダイヤ状(ひし形)に交差する紋様は、砂岩の割れ目に砂や泥が詰まって形成されたものと考えられる。

付表- 4.2.2.22(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.112)

No.	112
種類	ポットホール(甌穴)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 580m に位置する波蝕棚に形成されているポットホールである。</p> <p>海蝕崖に近く、比較的標高の高い場所に形成されたポットホールである。波蝕棚の比較的標高が高い箇所でポットホールが見受けられるのは、おそらくポットホールが形成された後の隆起作用に、その要因があると考えられる。</p>
位置	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.112 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31′ 32.1824″ ・経度:128° 03′ 02.2792″ ・標高(EL):1.381m ・標高(DL):2.544m </div>
形状・構造	ポットホールは海蝕崖から約5mに位置し、周辺の砂浜に比べ3~4m前後高い波蝕棚の上部に形成されている。
規模	ポットホールの大きさは直径約 0.5m、深さ約 0.3m である。
その他 (保存状態)	ポットホールには砂が少し堆積しているものの、波蝕棚の比較的高い場所に位置し、周辺に土砂が崩落するような脆弱な崖もないことから、比較的良好に保存されている。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.112 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 32.1824"
- ・経度:128° 03' 02.2792"
- ・標高(EL):1.381m
- ・標高(DL):2.544m



調査地点:No.112(ポットホール)

撮影日時:2014.6.30 14:30



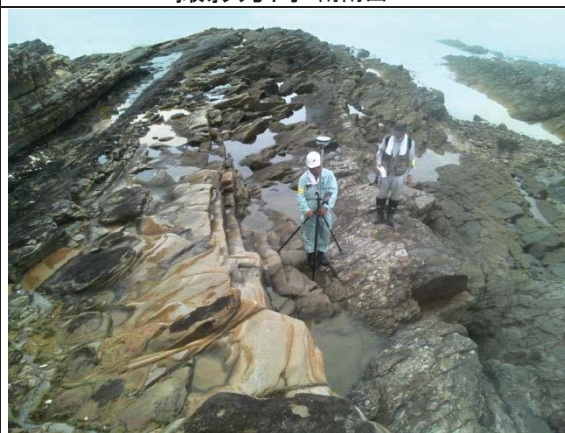
位置情報:緯度 26° 31' 32.65"
経度 128° 03' 02.19"
撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 32.61"
経度 128° 03' 02.37"
撮影方向:南南西



位置情報:緯度 26° 31' 32.12"
経度 128° 03' 02.51"
撮影方向:北西



位置情報:緯度 26° 31' 32.16"
経度 128° 03' 02.31"
撮影方向:北

写真



写真 (No.112①)
波蝕棚の比較的高い場所に形成されたポットホール。周辺の砂浜に比べると3~4mほど高い。



写真 (No.112②)
同上。



写真 (No.112③)
ポットホールの大きさは、直径約0.5m、高さ約0.3mである。

写真



写真 (No.112④)
同上。
底にやや砂が溜まっている。

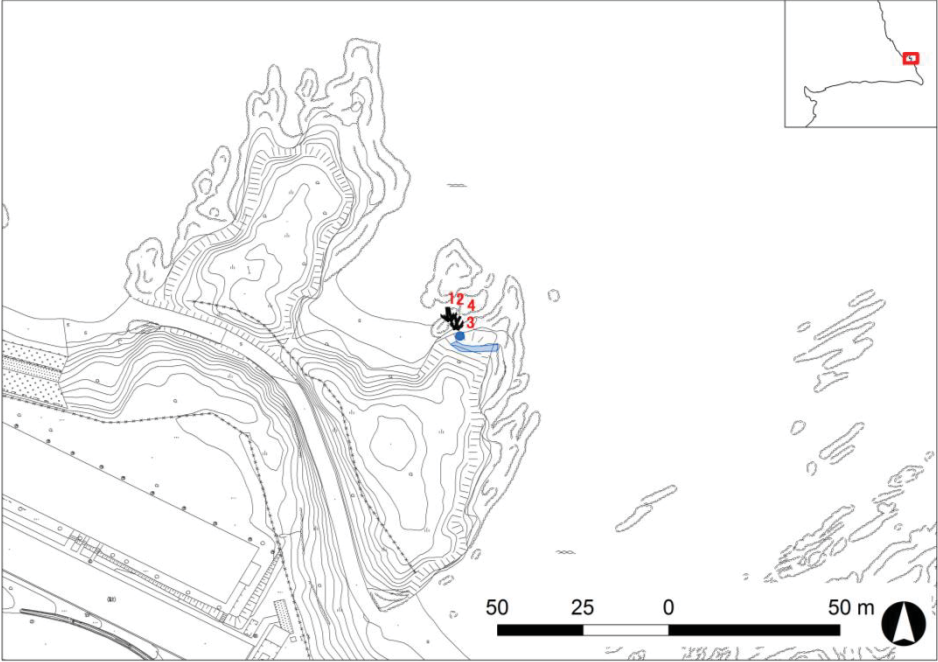


写真 (No.112⑤)
同上。



写真 (No.112⑥)
ポットホール周辺の
波蝕棚の状況。
嘉陽層の互層で、北
西の方向に傾いて
いる。

付表- 4.2.2.23(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.836)

No.	836
種類	嘉陽層の露頭(断層)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 30 日
概要	辺野古崎の北西約 540m に位置する辺野古北方海岸にある海蝕崖の露頭である。嘉陽層の露頭(断層)とされているが、断層による変形は他の地点に比べるとあまり明瞭ではない。
位置	 <div data-bbox="411 1218 847 1391" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【No.836 観測点座標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度:26° 31' 30.6231" ・経度:128° 03' 03.2229" ・標高(EL):1.602m ・標高(DL):2.765m </div>
形状・構造	高さ 8~9m 前後の嘉陽層の海蝕崖の露頭に数箇所にわたって断層がみられるが、他の地点に比べると断層はあまり明瞭ではない。
規模	高さ 8~9m 前後の海蝕崖の露頭に数箇所みられる。
その他 (保存状態)	保存状態は比較的良好である。

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.836 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 30.6231"
- ・経度:128° 03' 03.2229"
- ・標高(EL):1.602m
- ・標高(DL):2.765m



調査地点:No.836(嘉陽層の露頭(断層))

撮影日時:2014.6.30 14:45



位置情報:緯度 26° 31' 31.08"
経度 128° 03' 03.33"
撮影方向:南東

位置情報:緯度 26° 31' 31.05"
経度 128° 03' 03.04"
撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 30.75"
経度 128° 03' 02.85"
撮影方向:北東

位置情報:緯度 26° 31' 30.71"
経度 128° 03' 03.36"
撮影方向:西北西